

目次

はじめに 『源偶篇』・『源氏大和詞』と『源氏目案』	五
第一部 調査研究篇	一
一 語句から見た『源偶篇』と『目案』の類似性	一三
1 所在不明の語句をも『源偶篇』はそのまま踏襲する	一七
2 本文と異なる『目案』の語句と『源偶篇』の関係	一八
3 万治版『目案』に拠った可能性のある『源偶篇』	二〇
二 註解から見た『源偶篇』と『目案』の類似性	二一
三 卷名傍記から見た『目案』と『源偶篇』の類似性	二五
1 卷名傍記の誤りが『目案』と『源偶篇』と共通するもの	二六
A 『目案』における卷名傍記の記載漏れ	二六
B 『目案』における卷名傍記のズレ	二七
C 『目案』における拾遺	二八
D 万治版『目案』の卷名傍記と一致する『源偶篇』	二九
2 『源偶篇』独自の卷名傍記の誤り	三〇
四 『源偶篇』独自の語句	三一
1 卷名傍記	三三
2 語句 三四 A 誤写 三四 B 重複 三六 C 拾遺 三八	三三
3 註解 三九 A 誤写 三九 B 註解の特徴 四〇	三三
五 承応版『目案』の本文と注釈	四三
1 本文について	四三
2 注釈について	四五
六 『源氏大和詞』の位置	四六
1 語句	四七
A 『源偶篇』の誤写等の修正 四八 B 新たに立てた語句 四九	四七
2 註解	五二
A 註解の拡充 五二 B 独自の註解 五四	五二
3 和歌の増補	五七
4 挿絵について	六五
七 新資料『源氏大和詞絵巻』(仮称)について	七二

八	むすび	七四
〈文献〉	……………	七六
第二部	影印篇	七九
『源氏大和詞』	……………	八〇
『源氏大和詞絵巻』(仮称)	……………	一三一
あとがき	……………	一四九

はじめに 『源偶篇』・『源氏大和詞』と『源氏目案』

『源氏大和詞』は、筆者不明ながら契沖『源偶篇』(貞享二年奥書、写本)を版本化したものであることはよく知られている。事実、収載語数は『源偶篇』が九八七語で、『源氏大和詞』は九九一語と僅かに四語を上回るにすぎない。また見出し語句及びその註解も『源氏大和詞』は『源偶篇』のそれをほぼそのまま踏襲していることが明らかである。しかしその反面『源氏大和詞』は註解を増補し、さらに證歌(三八首)を加えるなど、必ずしも『源偶篇』と同じと言いつれ切れない。さらに何よりも『源氏大和詞』の大きな、そして独自の特徴は、『源偶篇』の「源氏故事詞分」を除いた上で、当時しきりに作られていた絵入本にならって、挿画(三〇図)を入れ、より一般向けに仕立てている点にある。池田利夫氏は次のように言う(『契沖全集』第九卷解題 昭和四九年 岩波書店)。

憶測を以てすれば、この本は、何人かが源偶篇の草稿もしくは写本を入手し、それに幾許かの筆を加えて書名を改め、契沖のあずかり知らぬままに印行されたのではなかったろうか。

恐らく、『源氏大和詞』の出版の事情は池田氏の推測の通りであって、厳密に言えば「この版本のどこにも契沖の名がなく、自筆本に見る奥書もない」(池田氏、前掲書)以上、本書は著者未詳とすべきであろう。にもかかわらず本書が契沖の著作と目されるのは、前述したように『源氏大和詞』が『源偶篇』に依拠していること明白だからである。ところで池田氏は『源氏大和詞』の特徴として次の点を指摘する。箇条書きにして整理する。

- 1 本文は、(略)全く源偶篇と同じであり、それに若干の改竄を加えた内容である。
- 2 増補の中で比較的多いのは、掲出された源氏語句の注のあとに、往々それを含む短歌を例示する。

はじめに 『源偶篇』・『源氏大和詞』と『源氏目案』

